

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102336
法人名	医療法人ビハール藤原胃腸科
事業所名	グループホームルンビニー
所在地	愛媛県松山市安城寺町530-1
自己評価作成日	平成28年9月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間入浴をしている。</li> <li>・日中の活動の時間が豊富</li> <li>・ご家族と一緒にいる看取り～ビハールケア(死後の入浴)</li> <li>・介護甲子園最優秀賞受賞(H27年)</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>介護甲子園に、第2回から今年まで連続5回エントリーしており、昨年の第5回介護甲子園では決勝まで進み、日本一になった。事業所は「今、がんばっている職員の取り組みを文字やカタチで残す」ことができると考え、エントリーを続けている。</p> <p>利用者個々に「夢プラン」を作っており、お墓参りの希望が多い。支援には、職員が付き添ったり、遠方に出かける場合は家族も一緒に出かけて案内してもらい支援している。終末期を過ごす利用者の夢プランには、昔、合唱団で歌っていたということもあり、職員で話し合い「音楽会で合唱する」ことを計画に挙げていた。本人には、利用者でつくる合唱団の部長になってもらい、体調をみながら練習を行った。居間にベッドを出して音楽会を行い、ボランティアのピアノ伴奏で合唱した。昔ながらの友人も参加してくれて、本人の手を握り一緒に歌ってくれた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ルンビニー

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 赤松 典子

評価完了日 28年 9月 24日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) BS法を取り入れ職員全員の意見を取りまとめ、行動指針を作成しスタッフの方向を一つにしている。行動指針を基に理念を掲げている。	
			(外部評価) 「一人ひとりの思いをくみ取って生活を豊かに」「人として当たり前の関わりを支援」と理念をつくり、共用空間等に掲示している。ホーム長は、新職員には、理念とともに「グループホームはどのようなところか」について説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会に入り、町内の活動(町内清掃、運動会、文化祭など)にも参加し地域の方々とも交流をしている。	
			(外部評価) 職員は、町内の草刈りやお祭りののぼり旗の片付けをかって出る等、地域活動に参加している。利用者が地域の夏祭りや文化祭に参加できるよう支援している。事業所主催の夏祭りには、チラシを近くの大型スーパー等に置いてもらい、多くの地域の方の参加があった。地域の方がボランティアで畑仕事をしてきている。法人主催で、地域フォーラム、認知症カフェ、認知症予防教室「求聞持塾」を開催しており、職員も相談相手や講師役になり参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域フォーラム(認知症の理解)、おれんじカフェだんだん(認知症の相談)、求聞持塾(認知症予防)を開催し認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に向けて発信している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) おたよりを見ながら日々の様子の説明を行いサービスの実際を報告し、意見を頂いている。介護甲子園で発表したルンビニーでの取組みやエントリーシートも含め次回発表する予定である。</p> <p>(外部評価) 会議は、民生委員や町内会長、公民館長、地区・組班長、自主防災組織の方、近くの大型スーパー店長等、7~9名程の参加がある。役職を降りても引き続き参加してくれる方もいる。家族は、代表者1名が参加している。利用者は、2~3名の方がお茶を出す役割になっている。会議を事業所の夏祭り等イベントと併せたり、認知症等の勉強会と併せて行ったりしている。会議時に「利用者が行くスーパーに休憩用の椅子やベンチを増やしてほしい」と要望して実現した事例がある。</p>	<p>家族参加を限定せず、多くの方が参加できるように工夫してはどうだろうか。さらに、サービスを利用する利用者からの意見をもとに、話し合うような機会も作ってはどうか。目標達成計画の取組状況を報告して、参加者にモニター役になってもらってはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に市職員(介護保険課)の方にも参加してもらいサービスの実際を報告し、意見を頂いている。また、市からの伝達事項などもこの場で伝えてもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に、地域包括支援センターや市の担当者から意見やアドバイスがある。日赤看護学生の実習や小・中学生の体験学習を受け入れている。事業所が呼び掛けて地域の介護事業所が集う機会「より愛」を作っており、2ヶ月に1回、10人程が集まり勉強会や情報交換を行っている。さらに、事業所間で緊急時の受け入れ等の協力体制を作っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内勉強会を開催し、身体拘束に対する理解を深め実施しないケアに取り組んでいる。玄関などオープンにし拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回ある法人内研修で身体拘束について勉強している。玄関は日中施錠せず、出入りがあると音が鳴るようにしている。郵便受けの確認に出る利用者を、職員は出入りの確認を行い見守っていた。転倒の危険がある利用者4~5名は、センサーマットを使用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  勉強会を開催したり、個人的にも参考書の回覧など高齢者虐待を知るように努めている。自分たちの振り返りにも繋がり今まで以上に虐待防止に力を入れている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  勉強会を開催し日常生活自立支援事業について学ぶ機会があったが成年後見人制度については学ぶ機会がない者もいると思われるのでカンファレンスで話し合う時間を設けたいと思っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時、解約時には十分に時間を取り、説明を行っている。不安や疑問点はその都度解決できるように面談を行い理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  普段の会話の中で本人の想いを汲み取るように努力している。また普段からご家族との人間関係づくりに努め、意見を言いやすい環境づくりにも気配りしている。  (外部評価)  家族来訪時には、個別記録を見てもらいながら日々の状況を具体的に伝えて意見や要望を聞いている。事業所のイベントや外出行事には、家族も案内している。年2回の家族会時には、家族だけで話す時間を設けて意見を出してもらっている。「ウォーターサーバーを置いてはどうか」という家族の声をきっかけに廊下に設置した。家族が庭のバラの手入れを行ってくれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフはそれぞれの上司と面談する機会を設けている。管理者はフロアの職員と行き、ホーム長は管理者と行き、施設長はホーム長と行く。面談での意見は施設長がまとめ代表に繋げている。	
			(外部評価) 介護甲子園に、第2回から今年まで連続5回エントリーしており、昨年の第5回介護甲子園では決勝まで進み、日本一になった。事業所は「今、がんばっている職員の取り組みを文字やカタチで残す」ことができると考え、エントリーを続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者はルンビニーの行事にも参加しスタッフと交流を大切にしている。勤続10年のスタッフには表彰式と金一封がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修を2か月に一度開催している。また外部の研修には事業所が勧めたりしながら技術や知識の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の事業所との集まり「より愛」を設け、情報交換、交流の場所作りを始めた。近くて遠い他事業所が徐々に近い存在になっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の生活歴を知ることで不安がないような生活に繋げるように努力している。また傾聴することを意識し、知り得た情報は記録に残しスタッフ間で共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) GHでどのような生活を送ってほしいか確認しながら、その都度不安や要望も言いやすい関係になるために努力している。要望はケアプランに取り入れている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前には必ず訪問しご本人・ご家族と面会を行い要望を含めて今後の生活について相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生き生活を一緒に楽しめる関係、お互いに協力し合える関係を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) GHでのイベント(ホーム内外)には必ず声をかけ一緒に過ごせる時間を作っている。入所して終わりではなく、新しい始まりという感覚でともに支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 夢プランとしてふるさとを訪れたりお墓参りに行ったりしている。また面会時間はなく24時間可能にしているののでいつでも自由に面会できる環境づくりに努めている。  (外部評価) 利用者個々に「夢プラン」を作っており、お墓参りの希望が多い。支援には、職員が付き添ったり、遠方に出かける場合は家族も一緒に出かけて案内してもらい支援している。終末期を過ごす利用者の夢プランには、昔、合唱団で歌っていたということもあり、職員で話し合い「音楽会で合唱する」ことを計画に挙げていた。本人には、利用者と職員でつくる合唱団の部長になってもらい、体調をみながら練習を行った。居間にベッドを出して音楽会を行い、ボランティアのピアノ伴奏で合唱した。昔ながらの友人も参加してくれて本人の手を握り一緒に歌ってくれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの性格を把握し、また他者との関係を観察しながらそれぞれの関わり合いを支える支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 行事のお知らせなど手紙を出す機会がある。また地域でお会いした時気軽に声をかけ関係性を断ち切らない取組みをしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の想いを汲み取るため日々の会話から注意し、必要な内容は記録に残し職員間で情報を共有している。またケアプランに反映できることは盛り込んでいる。 (外部評価) 利用契約時に「基本情報シート」で「生活歴」「なじみの人・場所」等の情報収集に取り組み、新たな情報があれば追記している。3ヶ月に1回、介護計画の見直し前に「本人や家族の望み」「私らしさ」「安心・快」「心身の力の発揮」「なじみの暮らし」等の把握に努め「立案シート」を作成して計画作成につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 基本情報シートやご本人、ご家族から得た情報を記録に残し職員間で共有し支援に努め、追加で基本情報シートに記入をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活を共にしていることで観察、把握に努めている。その日の気を付けるポイントを日誌にケアポイントとして記入している。	



自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
				フロア全員参加のカンファレンスにおいてご本人とご家族の想いを反映しながらスタッフ一人ひとりがアイデアを出しより良いケアプラン作成に努めている。
			(外部評価)	
			日々の個別記録で計画のケアの実践、その結果どうだったかを記録して状況確認を行う仕組みをつくり、日々の支援につなげている。又、ケアの実践毎に快・不快の表情を4段階に分けた顔文字で表し、表情からの思いや本音の把握に工夫している。毎日一人ひとりにその日のケアポイントを設定し、職員で共有して取り組み、個別記録に記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
				日常生活の小さなエピソードも記録に残し見返すことにより、継続すること反省すべきことを把握できるように努めている。そのために記入しやすくわかりやすい記録用紙づくりも努力している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
				日々変化するニーズに対して職員間でしっかりとミーティングし家族に説明、同意を得て柔軟な支援を行っている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
				イベント(夏祭り・敬老会)の際に太鼓や踊りや歌など、ボランティアの活用により豊かな暮らしが出来るように支援している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			主治医の往診が週二回あり日々の変化にも対応している。また専門外の科へ受診の折は、主治医から紹介状をもらいご家族の要望に沿える対応が取れている。	
			(外部評価)	
			現在、全員の方が母体医療機関をかかりつけ医にしており、週2回往診がある。専門医の受診は、家族が付き添っているが、状態や希望によって職員も同行している。歯科は訪問診療を利用している。歯科衛生士の訪問が週1回あり、重度の方の口腔ケアをしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			日々の変化は毎日報告している。また生活から得た情報や気づきで医療的なものは看護職に相談・報告できる勤務体制をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			主治医や相談員と連絡を取りながら早期退院できるよう情報交換を行い受け入れる体制をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			身体状況が1段階変化するごとにご家族・Drを含めた面談を行いGHで出来ること・出来ないことの説明、ご家族の意向を第一において今後の支援の方向性を話し合いチームで支援に取り組むよう努めている。	
			(外部評価)	
			開設以後、40名程の看取り支援を行っている。介護甲子園では、亡くなった後、家族と職員が一緒に行う湯灌の取り組みを中心に発表した。外に出る事が無い終末期を過ごす利用者の夢プランでは「季節を感じる」ことを計画に挙げていた。天気と体調をみて玄関の扉を外しベッドを庭に出して、庭に咲く桜の花を楽しめるように支援した。桜の花を顔に近づけると小さな声で「きれいやね」と話されたようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  緊急時の対応の勉強会を開いて知識を深め慌てず対応できるようシュミレーションし実践に活かせるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  運営推進会議を活用し地域の方にも参加してもらい災害の訓練を行っている。また地域の自主防災会にも参加している。	
			(外部評価)  年2回、消防署の協力のもと、運営推進会議と併せて避難訓練を行っている。利用者も参加して職員の誘導で駐車場まで避難した。運営推進会議の地域メンバーは、非常災害時の連絡網に協力してくれている。ホーム長は、地域の自主防災組織の会に参加して情報を得ている。	災害はいつ起こるかわからないことでもあり、又、利用者の状態も変わることから、避難訓練は年2回と決めずに、様々な想定で課題を見つけながら繰り返し行い、いざという時に備えてほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  一人ひとりの人格の理解につとめ、プライバシーを意識した言葉かけをおこなっている。年数が経つにつれ馴れ馴れしい言葉もあるため注意している。	
			(外部評価)  ホーム長は、職員に人生の先輩に対する言葉遣いやトイレ誘導時の声かけの配慮等について話している。利用者の持っている力については、一緒に行い試してみてもできることを役割にしている。居間では、習字や生け花、貼り絵、調理、おやつ作り等々、いろいろな活動を行っており、利用者一人ひとりの楽しみごとや出番作りを支援している。職員の中には「利用者の社会貢献を支援したい」と考えている方がいた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  日常生活で本人の発した言葉や行動はしっかりと記録に残しそれを実践できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員同士の情報共有を得てその日の過ごし方の支援の工夫をしているが職員側の都合に合わせてしまっている面もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その方の着たい服や家族が本人に来て欲しい服を選んだり化粧を出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の出来る力を把握し、準備・食事・片付けを役割分担し支援している。おかずは配食のため盛り付けがほとんどだが、お汁は一緒に作っている。	
			(外部評価) 昨年から、昼・夕食を系列事業所の厨房で調理を行い、事業所で盛り付けている。ご飯と汁物、朝食は事業所で作っている。昼食時、利用者が他利用者にお茶を注いだり、利用者が調理した煮豆を一品添えたり、下膳をしたり、利用者3名が並んで食器を洗う・濯ぐ・拭くを分担して行っている姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量は毎日チェックを行い、特に注意が必要な方に対しては何CC摂取したか記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っている。一人ひとりの力ではできないところをスタッフが補うようにケアを行っている。また口腔ケアが難しい方には週1回歯科衛生士による口腔ケアも行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
				排泄パターンを記録に残し失敗のないように声掛けを行い誘導したり介助することでトイレでの排泄に努めている。
			(外部評価)	
				カンファレンス時に、家族の経済的な負担も考慮して個々が使用する排泄用品の必要性や適切性について話し合っている。日中は利用者全員がトイレで排泄できるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
				朝食時にバナナや牛乳を取っている。最低一回は散歩の時間を作り体を動かしている。また便秘気味の方にはオリゴ糖も使用している。
			(外部評価)	
				毎日全員の入浴は困難でスタッフ側の都合で入浴を決めてしまっていることが多い。また体調を考慮したりご利用者の希望を取り込む努力をしている。夕ご飯が終わってからの夜入浴を実施している。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
				夕食後の入浴支援を基本にしている。現在、浴槽のまたぎが難しく浴槽の出入りを職員二人で介助する必要がある方については、日中に支援している。毎日、週2~3回等、本人の希望に沿って支援している。一人で入りたい方は、脱衣場からそれとなく見守っている。自宅での洗髪習慣を継続できるように、家族等と支援のあり方について検討しているようなケースがある。
			(外部評価)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
				安眠できるように日中の活動に参加してもらったり個々に応じたアプローチを行っている。また不眠だった方には日中に休んでもらうこともある。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 特に新しい薬が処方されたときには、その目的や副作用について理解し服薬してからの様子観察に力を入れ記録に残すように努め随時ドクター報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの残存機能を活かしてできることを役割としている。また気分転換ができるように外出を含めた活動にも力を入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 夢プランと名付けてお墓参りや遠く離れた兄弟に会いに行くことを実行している。季節の行事でお花見・いちご狩り・ブドウ狩り・外食にもでかけている。日々の活動の中で道の駅やお寺参りなどご利用者の要望に応じている。	
			(外部評価) 気候の良い頃は、庭で過ごしたり、畑での収穫、周辺を散歩したりできるよう支援している。近くのスーパーまで買い物に出かけたり、デパートや喫茶店に出かけたり、外食もできるよう支援している。初詣や寺参り、季節の花見物、いちご狩りやぶどう狩り等、家族も誘って出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本にお金の管理は施設で行っていないが、お金を自分で管理している方もいる。外出した時や買い物の時は立替金を使い支払いを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から届いたお祝いの品などには必ず、お礼の電話や手紙を出している。しかし施設からは積極的に出来ているわけではないため今後の課題である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室のドアのガラス部分より「人が立っている」と訴えがある方にはガラス部分に画用紙を貼ったり、トイレの場所がわかるようにトイレの張り紙をしている。また季節感を感じれるような空間づくりにも努めている。</p> <p>(外部評価) 門から玄関までのアプローチに観音像があり、利用者は前を通る時に手を合わせている。食堂や廊下の壁面に沿ってイスやソファを置き、好きな場所で休めるようにしている。壁面には、秋祭りやハロウィンの飾り付けがしてあり、ぶどう狩りの外出行事の写真や「赤トンボ」「虫の音」等と書いた習字作品を掲示している。廊下の棚に雑誌が置いてあり、キッチンのカウンターに季節の花を飾っていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 全体の状況を把握した上で一人の時間や気の合う仲間と過ごせる場面作りをしている。居室でお茶ができるように行う時もある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 「これはだめ」というものはなく、使い慣れた家具や電化製品を自由に持ち込んでもらっている。しかし生活していく中で怪我の恐れのあるものや危険なものはご家族と相談したうえで持ち帰ってもらうこともある。</p> <p>(外部評価) 居室の名札を立体的に付けている。自宅から持ち込んだドレッサーに化粧品を並べたり、ソファとテレビを持ち込んでいる方は寝転がってテレビを見ていた。利用者によっては、カレンダーに外泊日に印を付けたり、職員と出かけた日を書き込んだりしていた。持ち込みが少な目の方は、事業所にあるものを配置して居心地よく過ごせるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室前の名札や居室のタンスの引き出しにラベルを貼るなどしてわかりやすいようにしている。</p>	